

**業況DIの現況判断は▲40、先行きは21p悪化の▲61を見込む  
～新型コロナウイルス「第6波」や仕入れ価格の上昇等が影響～**

【今回調査の結果概要】

- 業況DIの現況判断（令和4年1～3月期）は▲40で、先行きは21ポイント（以下、p）悪化の▲61。
- 項目別では売上高DIの現況判断が▲50、営業利益DIは▲61となった。先行きは、売上高DIが11p改善の▲39、営業利益DIは13p改善の▲48。
- 労働力DIの現況判断は▲43、先行きは3p低下の▲46。

（注）DIについて

業況判断、売上及び利益の増減、設備、労働力、在庫の過不足などについて、以下の式により、各項目のDIを算出。

$$DI = (\text{「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」とする回答企業の構成比}) - (\text{「悪い」、「減少」、「下落」、「不足」とする回答企業の構成比})$$

例) 業況が良いと回答した企業が15%、普通と回答した企業が64%、悪いと回答した企業が21%  
⇒ 15（良いと回答）－ 21（悪いと回答） で 業況判断DIは▲6（マイナス6）

【調査の対象・期間・方法等】

1. 調査対象企業	人吉市内会員事業所 219 事業所
2. 調査時期	令和4年2月4日（金）～2月24日（木）
3. 対象期間	令和3年10月～12月（令和3年度 第3四半期） 令和4年1月～3月（同 年度 第4四半期） 令和4年4月～6月（令和4年度 第1四半期）
4. 回答状況	82 事業所（回収率 37.4%）

【回答企業数と構成比】

業 種	企業数 (社)	構成比 (%)	業 種	企業数 (社)	構成比 (%)
製造業	11	13.4	飲食業	7	8.5
建設業	13	15.9	サービス業	20	24.4
観光関連業	7	8.5	業種不明	3	3.7
卸・小売業	21	25.6	全 体	82	100.0

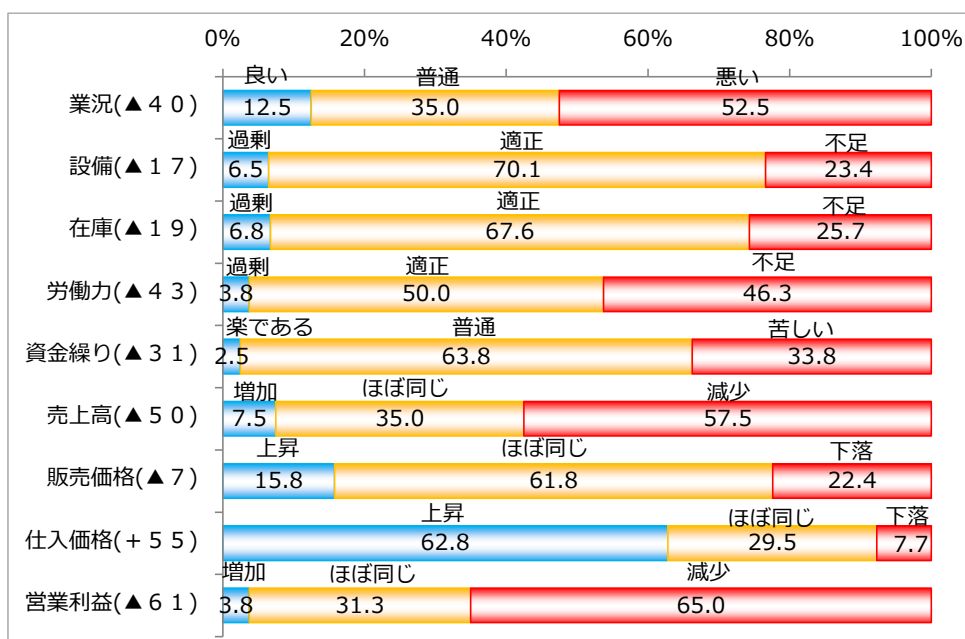
## 1. 概況

各項目の現況判断の回答結果は図表1のとおりである。

業況は「悪い」という回答が52.5%で最も多く、「普通」が35.0%、「良い」が12.5%となっている。業況D Iは▲40となっており、前期（令和3年10～12月期）より12p悪化している。

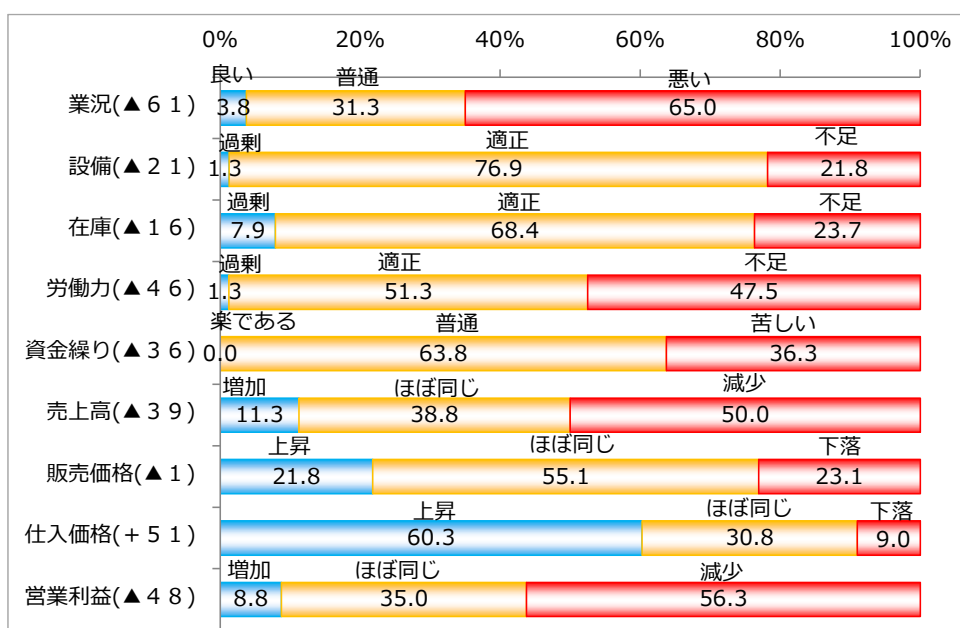
項目別にみると、売上高D Iは▲50で、減少という回答が57.5%となっている。また、営業利益D Iは▲61で、減少という回答が65.0%となるなど、新型コロナウイルス「第6波」や仕入れ価格の上昇の影響等がうかがえる。一方、労働力D Iは▲43で人手不足の状況が続いている。

図表1 項目別の現況判断



※項目名の ( ) 内の数字はそれぞれの調査項目のD I

### (参考) 項目別の先行き判断



## 2. 調査項目ごとの状況

### (1) 業況D I

業況D Iの現況判断は▲40で前期比12p悪化した。業種別にみると、前期に比べて、「製造業」や「飲食業」で改善しているが、その他の業種では悪化している。

先行きは21p悪化の▲61で、全ての業種で悪化している。

図表2 業況D I

	令和3年 4～6月期	令和3年 7～9月期	前回調査比	令和3年 10～12月期	前回調査比	令和4年 1～3月期	前回調査比	令和4年 4～6月期 (先行き)	今回調査比
全体	▲35	▲47	↓	▲28	↑	▲40	↓	▲61	↓
製造業	▲71	▲64	↑	▲45	↑	▲27	↑	▲36	↓
建設業	7	0	↓	31	↑	23	↓	▲31	↓
観光関連業	▲89	▲90	↓	▲17	↑	▲67	↓	▲100	↓
卸・小売業	▲12	▲44	↓	▲24	↑	▲52	↓	▲67	↓
飲食業	▲75	▲50	↑	▲86	↓	▲83	↑	▲100	↓
サービス業	▲30	▲48	↓	▲45	↑	▲55	↓	▲65	↓

### (2) 売上高D I

売上高D Iの現況判断は▲50で、前期比19p悪化した。業種別にみると、「製造業」で改善、「飲食業」で横ばい、その他の業種で悪化している。

先行きは11p改善の▲39で、業種別では「製造業」と「観光関連業」、「卸・小売業」、「サービス業」で改善、「飲食業」は横ばい、「建設業」で悪化している。

図表3 売上高D I

	令和3年 4～6月期	令和3年 7～9月期	前回調査比	令和3年 10～12月期	前回調査比	令和4年 1～3月期	前回調査比	令和4年 4～6月期 (先行き)	今回調査比
全体	▲29	▲45	↓	▲31	↑	▲50	↓	▲39	↑
製造業	▲57	▲57	→	▲45	↑	▲36	↑	▲9	↑
建設業	7	0	↓	23	↑	0	↓	▲8	↓
観光関連業	▲88	▲60	↑	▲17	↑	▲83	↓	▲29	↑
卸・小売業	▲8	▲50	↓	▲33	↑	▲57	↓	▲52	↑
飲食業	▲75	▲75	→	▲83	↓	▲83	→	▲83	→
サービス業	▲22	▲48	↓	▲45	↑	▲65	↓	▲47	↑

### (3) 営業利益D I

営業利益D Iの現況判断は▲61で前期比11p悪化した。業種別にみると、前期に比べて「製造業」で改善、「飲食業」で横ばい、その他の業種で悪化している。

先行きは13p改善の▲48となった。業種別では、「観光関連業」と「卸・小売業」、「飲食業」、「サービス業」で改善、「製造業」は横ばい、「建設業」で悪化している。

図表4 営業利益D I

	令和3年 4~6月期	令和3年 7~9月期	前回調査比	令和3年 10~12月期	前回調査比	令和4年 1~3月期	前回調査比	令和4年 4~6月期 (先行き)	今回調査比
	全体	▲40	▲51	↓	▲50	↑	▲61	↓	▲48
製造業	▲57	▲57	→	▲55	↑	▲36	↑	▲36	→
建設業	7	▲7	↓	▲15	↓	▲31	↓	▲38	↓
観光関連業	▲88	▲80	↑	▲33	↑	▲100	↓	▲29	↑
卸・小売業	▲28	▲56	↓	▲52	↑	▲67	↓	▲48	↑
飲食業	▲75	▲75	→	▲100	↓	▲100	→	▲83	↑
サービス業	▲48	▲52	↓	▲55	↓	▲65	↓	▲53	↑

### (4) 労働力D I

労働力D Iの現況判断は▲43で、前期比で横ばいであった。業種別では、「建設業」で低下、「製造業」と「観光関連業」、「飲食業」、「サービス業」は横ばい、「卸・小売業」で上昇している。

先行きは3ポイント低下の▲46となった。業種別では、「観光関連業」と「卸・小売業」、「サービス業」で低下、「製造業」と「建設業」は横ばい、「飲食業」で上昇している。

図表5 労働力D I

	令和3年 4~6月期	令和3年 7~9月期	前回調査比	令和3年 10~12月期	前回調査比	令和4年 1~3月期	前回調査比	令和4年 4~6月期 (先行き)	今回調査比
	全体	▲26	▲24	↑	▲43	↓	▲43	→	▲46
製造業	21	14	↓	▲18	↓	▲18	→	▲18	→
建設業	▲46	▲46	→	▲69	↓	▲77	↓	▲77	→
観光関連業	▲71	▲44	↑	▲67	↓	▲67	→	▲71	↓
卸・小売業	▲20	▲20	→	▲33	↓	▲29	↑	▲43	↓
飲食業	▲50	▲60	↓	▲33	↑	▲33	→	▲17	↑
サービス業	▲27	▲18	↑	▲40	↓	▲40	→	▲42	↓

### 3. 地域経済や業界動向等に関する自由記述

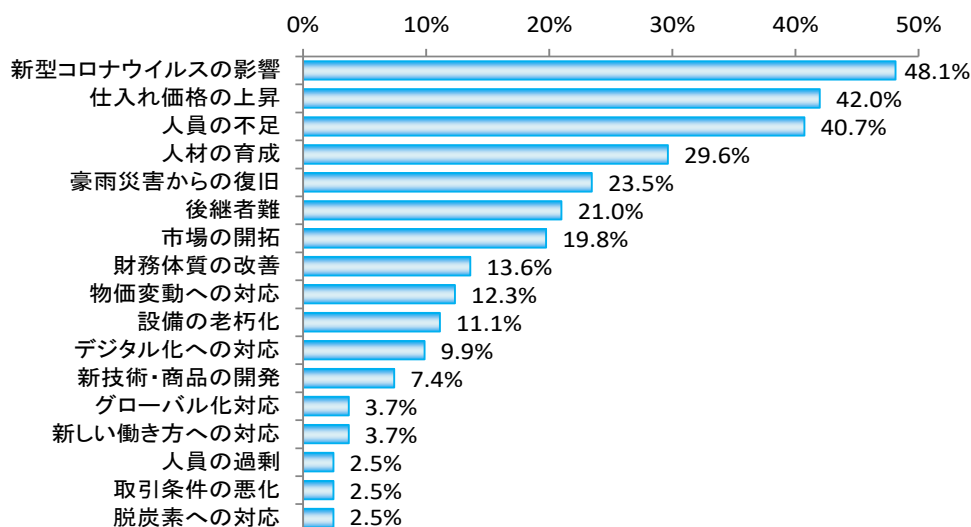
業種	コメント
製造業	売上を上げて、利益も上げなくてはいけないのは、十分わかっていますが、その方法が分かりません。
	材料不足（原材料）が現れつつある。
建設業	業界の課題でもある慢性的な人手不足に弊社も悩まされている。エアコンや給湯器など、資材の納入が遅れている。
	仕事はあるが労働者が不足のため売上はそれほどない。
	施設用材、商品の納期が延び不安定である。
	新型コロナが蔓延しております。業務には直接影響はありませんが、今後の営業に影響しそうで心配です。
	年度末に向けて受注は落ちついてきた。次年度に入れば受注量は減少する予定。各資材の価格上昇、納期遅れが顕在化してきている。
観光関連業	2021年の行楽シーズン中は、ツアーも入り先行きの見通しが立ってきた状況であったが、年末から年明けにかけて、コロナの影響で、客足が伸びず営業利益が減少となった。
	宿泊業ですが、ランニングコストの上昇が止まりません。一方で販売は価格競争のまま。コロナ・水害もあり厳しいです。
卸・小売業	コロナによる減少が深刻です。
	長引くコロナの影響で県外からのお客様が減り、夜間出歩く人も少なく厳しい一年となりました。春くらいからは良くなると信じて頑張っていこうと思います。人吉市全体の行事やイベントが、一日も早く前と同様に行える事を祈願しております。
	社員がコロナ前の半分になっていますので、労働力は常時不足しています。
飲食業	被災後ようやく改修工事が終わり、これから再出発をと考えておりましたところ、新型コロナが蔓延。今後の先行きを心配しております。
サービス業	豪雨災害からの復興の進捗度に注目している。
	先行きの事は全く予想がつきません。
	補助金を頂いたおかげで、1～3月期に助かりました。

#### 4. 特別テーマ「抱えている課題等とSDGsについて」

##### (1) 現在抱えている課題

現在抱えている課題について尋ねたところ、「新型コロナウイルスの影響」という回答が48.1%で最も多く、「仕入れ価格の上昇」が42.0%で続いた。調査時点で熊本県全域にまん延防止等重点措置が適用されていたことや、原油価格の高騰等に伴う仕入れ価格上昇の影響などがうかがえた。また、「人員の不足」や「人材の育成」、「後継者難」等の人に関する課題や、「豪雨災害からの復興」という回答も上位となった。

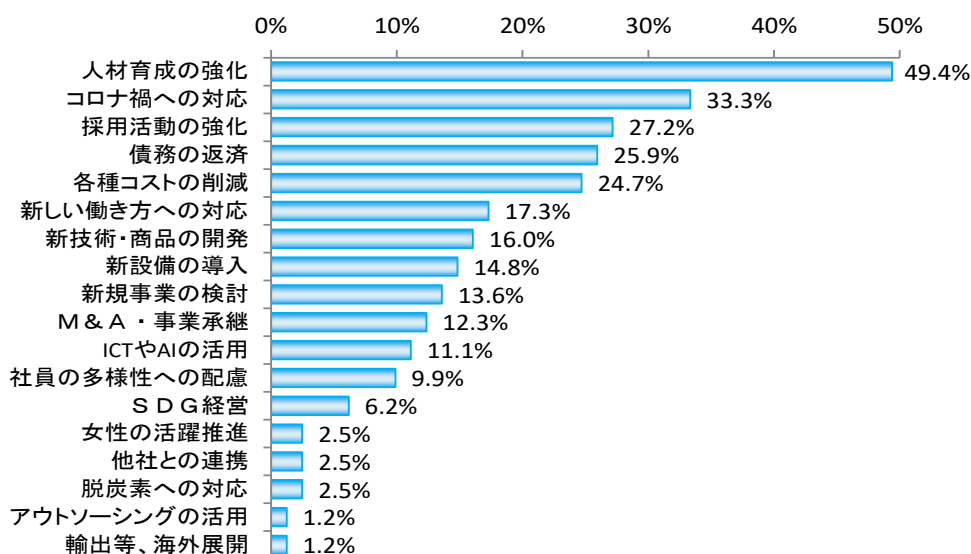
図表6 現在抱えている課題



##### (2) 今後重視していきたい施策

今後重視していきたい施策について尋ねたところ、「人材育成の強化」という回答が49.4%で最も多く、「コロナ禍への対応」が33.3%で続いた。「採用活動の強化」(27.2%)という回答も3番目に多く、抱えている課題等を踏まえて、人に関する施策を重視していることがうかがえる。また、「債務の返済」や「各種コストの削減」という回答も上位となっている。

図表7 今後重視していきたい施策

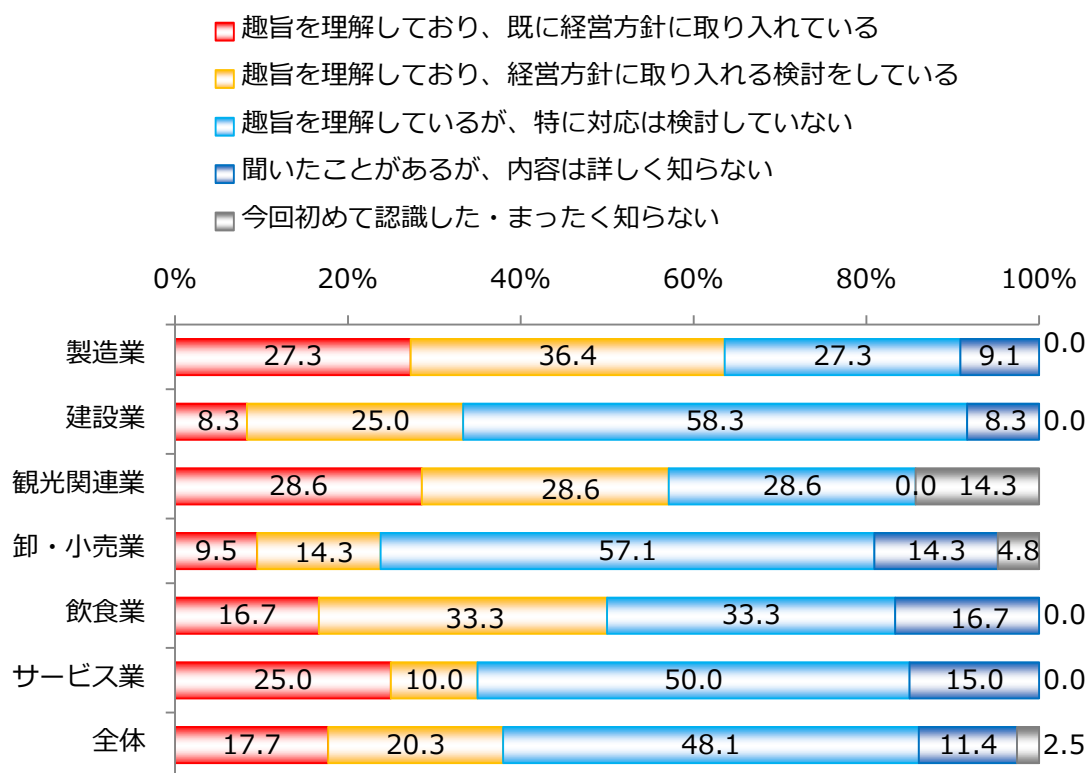


### (3) 「SDGs」について

「SDGs」に対する認識・経営スタンスについて尋ねたところ、「趣旨を理解しているが、特に対応は検討していない」が48.1%で最も多く、以下、「趣旨を理解しており、経営方針に取り入れる検討をしている」が20.3%、「趣旨を理解しており、既に経営方針に取り入れている」が17.7%、「聞いたことがあるが、内容は詳しく知らない」が11.4%、「今回初めて認識した・まったく知らない」が2.5%となった。SDGsの認識については86.1%が趣旨を理解しており、経営方針に取り入れる動きをしている企業が38.0%という結果であった。

業種別にみると、経営方針に取り入れる企業（検討含む）は、製造業（63.7%）や観光関連業（57.2%）、飲食業（50.0%）等の業種で高い割合となった。

図表8 「SDGs」に対する認識・経営スタンスについて



## 5. 抱えている課題やSDGs等に関する自由記述

### 【抱えている課題】

業種	コメント
製造業	水害・コロナ禍で売上が大幅に減少していく中で、工場を立て直す費用の捻出が課題となっている。
	水害に見舞われて、機械の購入をしないといけないのに、水害によってこれまでのお得意様が閉店を余儀なくされました。水害やコロナの影響で観光客の方も少なく、お土産品としてのお菓子も売れない状況です。
建設業	人手不足に悩まされる中でも、施主は工期短縮を要望してくるため、対応に苦慮している。
観光関連業	水害から続く集客減、資金繰り、先の見えないコロナ禍、人吉・球磨の観光が戻らない事が課題となっている。
卸・小売業	労働時間の縮小（生産性向上）が課題。
サービス業	まん延防止等重点措置による外出・イベント自粛等による売上の減少。原油価格高騰による燃料費・材料費の値上げ（経費の増加）。
	人材不足・高齢化により、経営が小さくなっていく中で、資金繰りをどうやっていくか心配。
	メーカーの都合（コロナの影響等）で商品が入ってこない。

### 【SDGs】

業種	コメント
製造業	SDGsの広がりにより自社商品への注目が高まっている。
建設業	脱炭素を目的にEV車の導入を進めている。
	近年SDGsが取り沙汰されてますが、我社も今後取り組んで参りたいと思っています。
観光関連業	熊本県SDGs登録事業者第一期として日々実践しています。
卸・小売業	フードドライブや廃棄ロスカットへの取組を積極的に行っています。
サービス業	SDGs目標6番目の安全な水とトイレに関する事業をしているため、SDGsに取組中。ペットボトルのリサイクル化にもトライしているが、課題が多い。